TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神さまの知恵-すべてを適切に、秩序正しく行いなさい
コリントの信徒への手紙一 14:26-40

2025 年 8 月 9 日 & 10 日
余沢　武 牧師

I. はじめに

こんにちは。先週、三郷で VBS が行われ、26 人の子供が参加しました。
そのときの写真です。親 2 人と子供 5 人が主を受け入れました。主を讃えます。

今週は渋谷の VBS が行われます。130 人の子供が参加します。神様の守りと救いのためにお祈りください。

IBP(インパクト・ビルディング・プロジェクト)のために献げてくださり感謝します。8/24(日)12 時半に IBP の説明会を行います。

私たちは皆、霊的な賜物を持っていることを学びました。コリントの人々は異言：話し手も聞き手も知らない言語で話す賜物を欲していました：パウロは、彼らが預言：神の真理を語り、他者が適用できるように助ける賜物を求めてほしいと願っていました。今日は、それらの賜物がどのように用いられるべきかを見ていきます。
まず祈りましょう。

II. すべてを適切に、秩序正しく行いなさい
(1)すべては造り上げるため

コリント一 14:26 を開きましょう。
「[26] きょうだいたち、それではどうすればよいでしょうか。あなたがたが集まるときには、それぞれほめ歌を歌い、教えを説き、啓示を語り、異言を語り、それを解き明かしますが、すべては教会を造り上げるためにすべきです。」

パウロは、彼らが教会に行くときは、旧約聖書の詩編または新しい歌をさす「ほめ歌」、「教え」、「啓示または預言」、「異言とその解き明かし」をたずさえて行くべだと言っています。全ては他者を造り上げる目的のために。

ここに示されているのは、初代クリスチャンの礼拝の説明です。ここで注目してください：
信徒たちによって語られた預言や異言は、礼拝の重要な一部でした。
長老、牧師、監督者の存在は示されていません。
パウロの後の手紙の中で重要視されている使徒たちの教えと長老による聖書の教えは、ここでは全く強調されていません。

原始教会の初期段階では、長老たちも新約聖書も存在しませんでした。これはすべてのキリスト教会の型となるべき姿ではないものの、クリスチャンの礼拝の究極的なゴールを強調しています：私たちは、他者を造り上げるために毎週集うのです。

日本では、全ての幼稚園や小学校で年に 1 回運動会が開かれます。ほとんどの両親が参加するイベントです。そこでは子供達の興奮、緊迫感、緊張が伝わってきます。それが最高潮に達すると、子供達の名前がアナウンスされます。

競争の前に、子供達はもう一度親の方を見て、彼らがしっかりと自分たちに注目しているか確認します。両親がその場にいるのはその瞬間のためです。子供達は、両親が他の誰かと話していたり、スマホを見ている姿は絶対に見たくないのです。

しかし残念なことに、一部の両親はまさしくそれをしてしまいます。そして彼らがその場に来た一番の目的、子供達を応援する機会を逃してしまうのです。パウロはこう言っています。そうならないで！

私たちがこの場にいる目的：他者を造り上げる機会を見逃さないでください。毎週末に訪れる一瞬一瞬の機会はそう多くはありません。それを見逃さないで下さい！私たちは自分のためにここにいるのではありません。お互いを造り上げるためにいるのです。そのように行動するとき、私たち自身も造り上げられるのです。

(2)秩序正しく

パウロは続けます。27－28節「[27] 異言を語る者がいれば、二人か多くて三人が順番に語り、一人は解き明かしをしなさい。[28] 解き明かす者がいなければ、教会では黙っていて、自分と神に対して語りなさい。」

パウロは言います。「解き明かす者」がいるなら「2、3人だけ」が語ることができます。解き明かす者が「いなければ」「黙って」いなさい。

解き明かすものがいないのなら、なるべく家で行うようにと言っているのです。前の箇所でこのように言いました。「しかし、教会では、異言で一万の言葉を語るよりも、他の人たちを教えるために、理性によって五つの言葉を語るほうを取ります。」(コリント一14:19)

TBC では異言の賜物を認め、皆さんの中にその賜物を持つ方がいることも承知しています。異言が他者への配慮を要する性質を持つことや、教会に異言を解き明かす人がいないことにより、皆さんが人と集まる場でその賜物を使うことを控えてくださっていることに感謝します。愛とご理解をありがとうございます。

29－31 節「[29] 預言する者も、二人か三人が語り、他の者はそれを検討しなさい。[30] 座っている他の人が啓示を受けたら、先の人は黙りなさい。[31] 皆が学び、皆が勧めを受けるように、一人一人が皆、預言できるようにしなさい。」

パウロは全ての人が預言することを望んでいるものの、ある礼拝において「二人か三人が語り」、その後「他の者はそれを検討しなさい」と言っています。

注目すべき点は、この新約での預言は、旧約聖書の預言者のようには受け入れられないということです。人々はそれを完全に受け入れる前に、「使徒たちの教え」や「聖書」に基づいて検討するべきなのです。

スモールグループ(SG)のようなものですが、SGは礼拝と言うより、もっと交わりを重視したものです。メンバーは、他の人が造り上げられるように、神の真理がどのように人生に適用され得るか、または適用されたかを分かち合います。牧師はおらず、皆がその内容を検討し、そこから学びます。

32－33a 節「[32] 預言者に働きかける霊は、預言者に服従するものです。[33a] 神は無秩序の神ではなく、平和の神だからです。」

私たちの神は秩序と平和の神であるため、クリスチャンはいつ、どこで預言をし、異言を語るのか、もしくは止めるのかをコントロールすることができるのです。

(3)女性

33b－36 節「[33b] 聖なる者たちのすべての教会でそうであるように、[34] 女は、教会では黙っていなさい。女には語ることが許されていません。律法も言っているように、服従しなさい。[35] 何か学びたいことがあれば、家で自分の夫に尋ねなさい。女が教会で語ったりすることは、恥ずべきことです。[36] それとも、神の言葉はあなたがたから出て来たのでしょうか。あるいは、あなたがたにだけ来たのでしょうか。」

教会における女性の役割について、パウロは2つの理由を述べています。「1.聖なる者たちのすべての教会でそうであるように」、「2.律法(旧約聖書)でも言っているように」と。

パウロが、教会の礼拝における女性の頭のかぶり物について教えたときも、彼は先ほどと同じ 2 つの理由を述べていたことを思い出してください:
「1.そのような習慣は、神の諸教会にもありません」、
そして「2.聖書」です:
「女は男から出た」
「女は男のために造られた」と創世記 2 章にあります。

パウロによると、こういった理由に基づき、女性は「権威の印」を頭に付けるべきであり、同じ理由で、女性は礼拝中に語るべきではないのです。

適切に、秩序正しい礼拝がもたれるために、パウロは3つの沈黙の機会について述べています:
①異言を語る人は、解き明かす者がいないときに語るべきではない
②預言者は、他の人が預言を始めたら語るべきではない。
③女性は礼拝中に語るべきではない。

表面上、これらはパウロの直前の教えと矛盾するように見えます。彼はこのように教えています:
コリント一 11:5a「女は誰でも、祈りや預言をするとき、頭にかぶり物を着けないなら、自分の頭を辱めることになります。」礼拝中に頭にかぶり物をしていれば、「祈り」や「預言」ができるように聞こえます。

しかし、コリント一 14:34a では、「女は、教会では黙っていなさい。女には語ることが許されていません」とあります。

後に出てくるテモテ一 2:11－13 でパウロはこう言っています。「[11] 女は静かに、あくまでも従順に学ぶべきです。[12] 女が教えたり、男の上に立ったりするのを、私は許しません。むしろ、静かにしているべきです。[13] なぜなら、アダムが初めに造られ、それからエバが造られたからです。」ここで、創世記 2 章が再度理由として挙げられています。

では、礼拝中に女性は祈り、預言することができるのでしょうか。

一番目の、最も伝統的な見方は、「頭にかぶり物をしないで女性が預言することは間違っている」です。しかし、頭にかぶり物していればよいという意味ではありません。それも間違いだと。「頭にかぶり物をせず祈ることは間違っている。」さらに「被り物をしていることは正しいが、被り物をしていようがいまいが預言は間違っている」です。

二番目の見方は、頭にかぶり物をしていれば「祈り」と「預言」は許されるというものです。「女は教会では黙っているべき」というのは、預言の検討に参加するべきではないという意味だと。この「検討」することは間違いで、これは教えたり、権威を持つことに関わるからです。

三番目の見方は、すべて文化や状況によるというものです。「女は教会では黙っているべき」という言葉は、当時の女性の一部に対して口を慎むようにと向けられたものでした。しかし、パウロの真意は、もしも適切に秩序正しく行うのであれば、女性は祈ったり、預言をしたり、教えたりまでもできるというものです。特に現代では。

パウロは自分の教えは普遍的な旧約聖書の創造の秩序に根ざしていると言っていることから、それが文化や状況によるものとして片付けるべきではないと思います。パウロはこのようにも言っています：

異言を語る人は、解き明かす者がいないときに語るべきではない

預言者は、他の人が預言を始めたら語るべきではない。

女性は礼拝中に語るべきではない。

「語る」という言葉がこの3つ全ての場面に使われています。これは「検討」を指している訳ではないと思います。パウロは、女性は礼拝の場において異言も預言も語るべきでないと言っているのだと思います。

神は、三位一体の美しさを私たちに教えています。神は、男と女、あるいは妻や夫、は平等ですが、役割が異なると教えています。神とイエスが平等でありながら役割が異なるように。礼拝の場では、私たちは神の完全な愛と御子の完全な順順を示すことで神を讃えるのです。

37－40 節「37 自分は預言者か霊の人であると思っている者は、私があなたがたに書いてきたことは主の命令であると認めなさい。38 それを認めない者は、その人もまた認められないでしょう。39 私のきょうだいたち、こういうわけですから、預言することを熱心に求めなさい。また、異言を語ることを禁じてはなりません。40 ただ、すべてを適切に、秩序正しく行いなさい。」

パウロは、これらは「主の命令」であると言います。私たちは「預言することを熱心に求める」ためにいます。ただし、「適切に、秩序正しく」

私たちの礼拝はコリント教会のものとはまったく異なります。長老や使徒の教え、聖書があります。ですから、主に礼拝の前後に個人的な予言はされるでしょう。他の人との交流や別の集まりやSGにおいて。

他の人々へ語ったサマリアの女のように。
「イエスが私にしてくださったことを聞いて下さい」
私たちも他の人々へ語るのです。「イエスが私にしてくださったことを聞いてください。仕事で、学校で、家庭で困難な状況におかれていましたが、祈りました。御言葉に従いました。そして神がこのようにしてくださいました。」真実がどう適応されたか示しましょう。クリスチャンは建て上げられるのです。ノンクリスチャンはこういうかもしれません。「神様は本当にあなたがたの間にいる」

もしまだイエスに従う決心ができていなければ、ぜひ今日なさってください。そうすれば、新名も変化して他の人を助けることが出来ます。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://t-b-c.us/sg3325jp

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9月7日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 201
霊的に成長するために
9月21日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了し、メンバーの方

★クラス 210
スモールグループトレーニング
10月4日(土)1:30pm – 5:30pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

全クラス申し込み：https://t-b-c.us/classes

奉仕者募集中！

急募！

日本語訳レイアウト&印刷
（女性 3 名募集）

英語のスキルは必要ありません。
・月 1 回、土曜日 16 時に TBC にて作業します。
今見ているこの紙を作成&印刷してもらいます。
ワードを使用してひな形に翻訳原稿を入れてレイアウトし印刷するだけの
簡単な作業です。

*スキル：MS Word の操作ができる方。
*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org